

## 調査報告書

- 1 とき：2012年11月14日
- 2 行先：袋井市(役所防災課)、掛川城
- 3 参加者：山口清明、政務調査補助員(浜田)
- 4 主な内容

〈袋井市〉

- ・ 南海トラフ地震で津波や液状化が予想される静岡県袋井市の防災対策の視察調査を行いました。江戸時代の延宝の高潮被害の後に、遠州灘沿岸地域の津波・高潮避難所として、土を盛り上げた「命山」が造られ、今も2ヶ所残っています。その先人の知恵を受け継いだ「平成の命山」を計画し、起工式が11月17日に行われます。
- ・ 静岡県内でも盛り土型の避難施設は初めてです。袋井市防災課の方から「避難タワーの寿命は約50年でメンテナンスも必要。普段は危険防止のため鍵をかけては入れない。命山は、寿命がなく公園として利用でき、かさ上げも出来る。盛り土は太田川掘削土を利用するから無料。敷地6500㎡、高さ海拔12mで約800人が避難できる。事業費が2億2275万5千円」と説明を受けました。袋井市は「被害を最小限にとどめ、人的被害をゼロにすることを目標」とし、耐震化・避難場所・防災体制の整備をすすめています。各地域の津波到達時間を予測し、全地区の人が避難できるように細かく避難場所を計画した「津波避難マップ」など、学ぶべきものがあります。中新田命山と大野命山に登りましたが、350年経過している今でも使える状態でした。「平成の命山」は来年8月末完成予定です。



- ・ 磐田市の海岸にも土を積み上げた高台に広い公園があり、地元の釣り人は「津波がきたら、あの高台に避難しようと思っている」と案内していただきました。トイレも完備された広い公園で、ロープで閉鎖されていたが、

車も乗り入れ可能な構造でした。

- ・名古屋市の津波高潮対策に、応用できる部分があると思います。

〈掛川市生涯学習振興公社掛川城管理事務所〉

- ・掛川城の天守閣は、1人の女性が「掛川市は生涯学習がすすんだところ、信仰しているお寺もある」とよせた寄付金により建てられました。最初は木造の予定ではなかったが、寄付金の額が1億5000万から5億へ増え、木造建築へ変更したそうです。二の丸御殿は、現存する4つの御殿の1つで国の重要文化財です。係の方が「派手ではないが、二の丸御殿はすばらしい。天守閣は何百年かたてば価値がでるかもしれないが…」と説明していました。
- ・名古屋城も寄付を募り、その金額に見合った設計でよいのではないかと思います。